



長尾 義和

## 令和7年度の町政運営から



平田 要

## アライグマ被害防止報奨金制度を

町政運営に影響を及ぼす人口減少対策は重要である。人口減少を抑え、交流、関係人口を増加させていくことが、持続可能な町政運営、魅力あるまちづくりに繋がり、多くの住民は期待している。

令和7年度の町政運営、予算編成を問う。

問 予算の特筆すべき点、重点施策は何か。

答 「住み続けられる町、移り住みたい町」を実現することである。その第一歩として、プロモーション担当部署を設置し、町への誇りや愛着を感じられるよう周知する。また、教育環境整備や教育内容の充実、空き地域コミュニティの衰えの利活用に向け、課題退、集落機能の維持が困

解決に取り組む。

問 昨年、町長は7年度予算で交通対策、空き家対策について検討するよう指示したと言われているが。

答 乗合タクシーは、住民の利便性向上につながるよう4月から町全域を運行区域とする予定である。空き家対策については、実態調査及び空家等対策計画の改定を行う。

問 本年、国勢調査が実施される。人口減少のなか厳しい結果になると予測されるが、想定される影響は。

答 人口減少に伴う影響は、地域経済の活力低下、地域コミュニティの衰えの利活用に向け、課題退、集落機能の維持が困



道の駅 能勢（くりの郷）

難になり、自主財源の確保などに影響が生じる。

問 将来、道の駅はどうあるべきか。改めて問う。

答 観光や防災の観点、稼ぐ地域経営の拠点としたが。

問 乗合タクシーは、住民の利便性向上につながるよう4月から町全域を運行区域とする予定である。空き家対策については、実態調査及び空家等対策計画の改定を行う。

問 農作物の被害状況について問う。

答 令和5年度、被害面積は1.43haで、被害金額約700万円となっている。

問 アライグマの捕獲の現状について問う。

答 被害を受けている住民からの申請により捕獲檻を貸し出し、捕獲された場合は町の職員が引取りに出向き処理していく。

アライグマは、平成17年6月施行の外来生物法で特定外来生物に指定され、既に捕獲活動が行われていて。農作物等の被害を抑え込むには個体数を減らさせるしかない。

問 府のアライグマ駆除実施計画では完全排除を目指して行動を起こすと言っている。町の考えを問う。

答 町の計画においても府の計画に基づき、年間を通じて、可能な限り捕獲を行うとしている。

問 生産意欲を損なわれることのないよう、何とかの対応の考え方を問う。

答 檻による捕獲が一番と思っているが、今後は更に効率的な防除方法があれば府とも協議していただきたい。

アライグマは、平成17年6月施行の外来生物法で特定外来生物に指定され、既に捕獲活動が行われていて。農作物等の被害を抑え込むには個体数を減らせるしかない。

問 府のアライグマ駆除実施計画では完全排除を目指して行動を起こすと言っている。町の考えを問う。

答 町の計画においても府の計画に基づき、年間を通じて、可能な限り捕獲を行うとしている。

問 生産意欲を損なわれることのないよう、何とかの対応の考え方を問う。

答 檻による捕獲が一番と思っているが、今後は更に効率的な防除方法があれば府とも協議していただきたい。

問 捕獲個体の年度別に推移を問う。

